

国際教養大の役割 世界に直結

中嶋嶺雄氏・明石康氏・石川好氏が語る 〈下〉

象徴として意義大 中嶋氏

——国際教養大は一般国民にとって役立ちますか。中嶋嶺雄氏 小さいが中

身の濃い異文化空間ができてくる。秋田にとってシンボリックな国際交流の拠点がで



きる意義は大きい。すぐに企業活動につながることはかぎらないが、秋田が注目を集めることで、秋田ブランドのようなものが育つ。開学時のリスクを減らすために、地域研究もアメリカ、中国に特化し、定員も1000人。だが、将来的には韓国、ロシアにも広げたい。石川好氏 ロシアや韓国に広げるのは非常にいい。朝鮮半島の問題も10年以内には決着できているだろう。秋田という地理的なものも利用して、このエリアとの交流を進めるのは大きなプラスだ。

明石康氏 国際化とは何かということになる。日本人は、目に見え、形のある結果を求める傾向がある。教育の国際化は、目に見えず、効果が表れるのに非常に時間がかかる。しかし、そこそが将来まで残る本物の国際化だ。日本だけで

国際化について話す明石康氏(左から)、中嶋嶺雄氏、石川好氏(東京都内で

通用する人材を作ってもだめな時代。国際的な他流試合に出て、堂々と戦える力を持つ人材を育てる必要がある。しかし、そうした学生を育てられる人もそうはいない。国際教養大に集まる教員は人材の国際化ができる人だ。観光客がどうか、海外航空便がどうか、だとかいうのは結果であって、それを先に言うのは順序を間違えている。中嶋氏 毎年1000人がきちんとした英語力と教養を身につけて、秋田から世に出るのはすごいこと。現

度胸と辛

——3人も海外経験が豊富。世界を目指したいきさは。明石氏 旧制中学3年の時に終戦を迎えた。どうしてあんな戦争をしたのか、間違った外交は二度としてはいけないという思いを強く持った。それで国際政治、外交をきちんと勉強しようと考えた。戦争の惨禍を味わいたくない。青年期の問題意識からだ。国連に入ったのは、計画的に

国際化について話す明石康氏(左から)、中嶋嶺雄氏、石川好氏(東京都内で

代の松下村塾だと思つている。大学を卒業してもTO

EFLを600点以上とれるのは全国でも毎年、千人

程度ではないか。大学の教育の仕方が悪い。

い。これからは地方の時代、従つて公立大の時代だ。

秋田なまり英語OK 明石氏

—国際教養大を目指すような生徒たちに伝えたいことは。

明石氏 日本全体の国際化の中でみても秋田は遅れている。しかし、負担に感じることはない。冗談でよく言うのだが、秋田なまりの英語でいいんだ。標準語にはない音で英語や仏語に近いものを秋田弁はたくさん持っている。ハンディと

感じることもあるかも知れないが、自分の利点だと思つて欲しい。私は東京の大学に入った段階でハンディを感じたが、卒業時には全く感じなかった。秋田に一流の教育をする所ができるなら、わざわざ東京に行く必要はない。ITの時代、情報や知識の格差は地域間で存在する時代じゃない。

石川氏 美短には、世界的な賞もとれるいい学生が集まつている。そういう学生が2年の課程を終えて国際教養大に行き、英語や中国語を習得すればすごい。世界で通用する。

中嶋氏 編入学などの制度も柔軟にしようと考えている。そういういい学生をぜひ入学させたい。

明石氏 飛び入学など新しいことをどんどんやって欲しい。日本的な平等主義、社会主義がだめになつている。日本はどう人材を育成すればいいか戸惑っている状態。これからの日本にとつて新しい教育が大切だ。

準備したのではなく、偶然の事情が重なつた。

中嶋氏 高校の時、中国、インドがめざましくクローズアップされていて、外国に興味を持った。東京外国語大に行って中国を勉強した。学問的に不十分に感じ、東大の大学院で国際関係論を学んだ。

石川氏 兄がアメリカに移民で渡つた。自分は、どこか分かんず、フラフラと船

語学力あれば 石川氏

に乗つてアメリカに行った。そうしたら畑に連れていかれて、4年半、労働者をやつただけのこと。若い時は、どういう形でもいい。言葉でも、肉体でも、味で触れてもいい。日本人は外国へ行って接点をもたないとだめだ。日本人は、白人が英語を話しているのが国際社会だと思いがちだ。様々な人が「これが英語か」という英語を話しているのが国際社会の現

実。そういう場所に行けるだけ早い段階で首を突っ込んで方がいい。明石氏 お国なまりのいい英語は魅力がない。歴代の国連事務総長もお国なまりで、自分の思うことを99%以上伝えられる人だつた。国際教養大が秋田に来たら、県民がいろいろな形で利用し、国際社会への窓口にするのが大事だ。他の大学も単位互換などで相互に刺激し合えたらいい。

中嶋氏 秋田県内の大学や北東北3県の大学と連携できるような制度も作りた

ある。

中嶋氏 今は、競争の時代だ。若者は可能性を持っている。それを大いに伸ばしてほしい。

明石氏 大学が付加価値を付ける教育をする一方、学生も意識を変える必要がある。受験後の4年間は休暇だという雰囲気でするのではなく、厳しい考えを持って欲しい。